
日本語版 ExtraView リリース・ノート
バージョン 6.5.1

2011 年 5 月



改定履歴

| Rev. | Date | Modification |
|------|-----------|--------------|
| [N] | 2011-5-23 | 新規作成 |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

目次

| | |
|---------------------------------|----|
| 1. バージョン 6.5.1 の新機能 | 1 |
| 一般的な機能..... | 1 |
| レポート機能 | 3 |
| 新しい管理機能..... | 5 |
| issue の追加 / 編集の改善 | 14 |
| 拡張機能 | 15 |
| パフォーマンス | 19 |
| 2. 日本語版 ExtraView に関する注意事項..... | 21 |
| 3. 日本語版 ExtraView に関する制限事項..... | 22 |
| 修正された不具合について | 22 |
| 環境に関する制限事項..... | 22 |
| 動作に関する制限事項..... | 22 |

1. バージョン 6.5.1 の新機能

一般的な機能

- ・ 詳細レポート、電子メール・レイアウトおよび履歴レイアウトに組み込みレイアウトを使用することが可能になりました。
- ・ 異なるフィールドを親とし、同じ子フィールドを持つ複数の許容値の関係を作成することができるようになりました。1 つの子フィールドに対して、最大 3 つの親フィールドを持つことができます。同一の追加 / 編集画面に 2 つ (3 つ) の親フィールドと該当する子フィールドを含めると、可視となる子は 2 つ (3 つ) の許容値関係のどちらも満たすものだけになります。子値が 2 つ (3 つ) の親値のいずれかのうち 1 つだけを許容値として持つ場合、子は表示されず、それは無効な選択となります。
- ・ ビジネス・ルールを含むリピーティング行が作成可能になりました。
- ・ Firefox ブラウザを使用した場合に、より簡単に添付ファイルを保存できるようになりました。
- ・ 許容値の親値に非 ASCII 文字が含まれている場合でも正しく処理されるようになりました。
- ・ ホームページ上のレポート・タイトルは、HTML fieldset 要素を用いてレンダリングされるようになりました。これにより縦方向に取られるスペースは狭くなり、他の画面との整合性が改善されました。
- ・ 新しいフィールド "サービス・レベル・アグリメント (SLA)" が追加されました。このフィールドでは、issue がそのステータスにとどまっている時間を測定し、その値を表示することができます。複数の SLA を定義し、それを対するレポートを作成することができます。
- ・ SSO が有効である場合、サインオフ後に Internet Explorer でブラウザを更新すると、ユーザは自動的に再度サインインします。この動作自体は正しい動きでしたが、ユーザに誤解を与えないよう、メッセージがより明確なものに改訂されました。
- ・ アドホック電子メールの送信後に編集画面がクローズされなくなりました。以前はメール送信後にセッションがクローズされていました。
- ・ 新しい動作設定 "ENABLE_GOOGLE_LANGUAGE_API" が追加されました。これにより、あるテキスト・エリア・フィールドを Google Language API を使用して自動的に別の言語に翻訳できます。
- ・ ナビゲーションバーが改善されました。これにより、ユーザのエリア、プロジェクト、およびロールを変更することが可能になりました。ユーザのレポートを表示することも可能です。パフォーマンスも改善しています。
- ・ サインオン画面の背景にナビゲーション・バーが表示されなくなり、ナビゲーション・バーで 사용되는ロゴとは別のロゴを表示できるようになりました。
- ・ Internet Explorer 8 を完全にサポートしました。

- ・ ロールを 1 つしか持たないユーザでも、GUI からロールの識別ができるようになりました。ユーザの名前にマウスを置くと、そのユーザのロールが表示されるようになりました。
- ・ 添付ファイルに対する説明フィールド"ATTACH_FILE_DESC"は、常に必須ではなく、任意指定フィールドになりました。
- ・ メイン・フレーム上部のメニューバーが固定されました。これにより、ユーザがメニューバー・ボタンを探すために画面をスクロールする必要がなくなりました。
- ・ ナビゲーション・バーのヘルプ・ボタンをクリックしたときに開くヘルプ・ウィンドウのサイズが、約 1000 ピクセルに増えました。
- ・ 画面のフッターにある著作権表示文の環境文字列に、ユーザのセッションがアクセスしているアプリケーション・サーバのノード名が含まれるようになりました。
- ・ 電子メール・テンプレートをプレーンテキストと HTML の両方のバージョンで作成可能になりました。
- ・ ユーザが見やすいように、編集画面と Quickedit 画面の HTML エリア・フィールドのサイズが変更されました。
- ・ 関係者リストにおいて、@記号を含むユーザ ID が使用可能になりました。これにより、E メールアドレスをアカウントのユーザ ID として使用できるようになりました。
- ・ ExtraView に使用されている画面イメージの対部分が、GIF 形式の代わりに PNG 形式で表示されるようになりました。これにより、画像およびボタンの見栄えが良くなっています。
- ・ 新しい動作設定"ALLOW_PASSWORD_AUTOCOMplete"が追加されました。これにより、ユーザは個別に自身のユーザ ID とパスワードをブラウザにキャッシュすることができるようになりました。
- ・ ナビゲーション・バーが日本語で表示されるようになりました。
- ・ 編集画面において、関連 issue の新しい子レコードを追加できるようになりました。
- ・ 関係グループのタイプとして、"一対多のカスケード"が実装されました。この関係グループは「親がなくなった(orphaned)」issue が削除されることを除き、"一対多の関係グループ"のすべての特徴を持ちます。"一対多のカスケード"関係グループである子 issue の親が削除されると必ず、子 issue も削除されます。さらに、その子 issue がカスケード関係グループにおいて別の issue の親である場合、その issue も削除されます。以下、すべてのネスト・レベルにわたって同様に処理されます。
- ・ レポートを編集する際、レポート説明の横にヘルプ情報のボタンが表示されるようになりました。

レポート機能

- ・レポート作成において、フィルタ設定を保存することが可能になりました。一度作成したフィルタ設定を繰り返し利用することができます。
- ・グラフ作成において、グラフ上に表示されるステータスとフィルタとして使用されるステータスが区別されるようになりました。
- ・管理者は、すべてのキーワード検索で Oracle および SQL サーバのテキスト・インデックス機能を利用できるようなデータベースの構成が可能になりました。この機能は大容量のデータベースでのテキストおよび添付ファイルのキーワード検索をはるかに高速にする手段となります。
- ・レポートの出力オプションとして、Adobe PDF 形式が追加されました。
- ・カラム・レポートおよびクイックリスト・レポートにおいてユーザが画面を下にスクロールしたとき、カラム・タイトルがブラウザ画面上部の定位置に留まるようになりました。これにより、レポート出力が分かりやすくなります。
- ・カラム・レポートを作成する時、レポートでの選択フィールドをタイプ別に表示できるようになりました。フィールド・タイプ、ボタン・タイプ、計算された式フィールド・タイプ の3種類別に表示できます。
- ・詳細レポート画面における関連 issue の表示が見やすくなりました。
- ・フィールド"HIST_RANGE_END"をレポート・フィルタとして使用することができるようになりました。ユーザが日付/時刻をレポート・フィルタとして選択すると、その日付/時刻の時点でのレポート結果が表示されます。
- ・新しいフィールド"NUMBER_OF_ATTACHMENTS"が追加されました。これにより、レポート上に添付ファイルの数を表示することが可能です。レポート作成時のフィルタとしても利用可能です。
- ・Quickfind によるパフォーマンス改善によって、検索対象のすべての添付ファイルの累積サイズをユーザに示す必要がなくなりました。したがって、Quickfind が有効である場合にはポップアップが削除されました。
- ・新しいレポート・タイプ"ダッシュボード・レポート"が追加されました。ダッシュボード・レポートには、グラフ、エージング、サマリ、マトリクスの各タイプをもつ他のレポートを最大100 個含めることができます。 ホームページ上に配置して、多くのユーザに共通の情報を伝える手段として使用することができます。
- ・新しいグラフのタイプとして「値ベース」のグラフが追加されました。以下に示します：

円グラフ

棒グラフ

積み重ね棒グラフ

エリア・グラフ

折れ線グラフ

値ベースのグラフは、時間ベースのグラフが示すような一定期間内の傾向は示しませんが、ある特定の時点（通常は現在日付）における 1 つまたは 2 つのリスト内の値を可視化します。

- ・クイックリストにおいて適用されるレイアウトがクエリ結果に基づいて変更されるようになりました。クエリの結果、取得された issue が単一のビジネス・エリアとプロジェクトの組み合わせに属している場合、そのエリアとプロジェクトのレイアウトが適用されます。
- ・「計算された式」フィールドと「デフォルト値」フィールドのサイズを 4000 文字に増やし、長いレポート式が収まるようにしました。
- ・サマリ・レポートのクエリ結果から、上位 N 件（Top10, Top5 など）を表示する新機能が追加されました。これには新しいフィールド"EV_TOP_RANK"を使用します。例えば、上位 10 件までを出力するには、EV_TOP_RANK <= 10 というフィルタが使用されます。
- ・issue の編集ボタンが階層レポートの最上位レコードに追加されました。これにより、ユーザは階層内の最上位のレコードにドリルダウンすることが可能になりました。
- ・新しく「カレンダー」レポート・タイプが使用できるようになりました。issue がカレンダーに表示されると、そこからドリルダウンしたり、任意の範囲をドラッグして issue やイベントの日付や時刻を変更することができます。また、新しい issue やイベントを直接カレンダーから追加することも可能です。
- ・グラフでは、オプションとして特定期間内での特定ステータスにある issue の総数を示す代わりに、特定期間内に特定の値に移動した件数を表すステータス値に対応するようになりました。
- ・グラフ作成において、ほとんどのフィールドについて時間ベースのグラフを作成ができるようになりました。また、時間ベースのクエリが改善され、はるかに迅速に結果が表示されるようになりました。
- ・カラム・レポートにおいて、[表示]ボタンおよび[編集]ボタンの表示を任意で設定できるようになりました。
- ・画像を含む HTML 文字列をコンテナ・レポートのヘッダーまたはフッターに挿入することが可能になりました。
- ・カラム・レポートの新しいオプションにより、作成レポートのレポート出力において行と列を入れ替えることができるようになりました。
- ・ホームページ上のカラム・レポートをカラム・タイトルでソートできるようになりました。
- ・カスタム URL レポートをホームページにおくことができるようになりました。ExtraView の外部のコンテンツを ExtraView ホームページに配置することも可能です。
- ・階層レポート機能を、すべての適切なレポート・タイプに対応させました。新たに対応したのは、サマリー、マトリクス、時間ベースでないグラフ、カレンダー・レポートです。

- ・ ホームページ・レポートにはタイトルの右に更新ボタンが示されるようになりました。これにより、ページ全体を更新するのではなく、各レポートを個別に更新することが可能です。
- ・ コンテナ・レポートの行数制限を 50 行まで増やしました。
- ・ ユーザ名/ID の様々な形式がサポートされるようになりました。ユーザ名の表示設定とは無関係に、エンドユーザはキーワード検索に[名]、[姓]または[ユーザ ID]を入力することにより、そのユーザが関連付けられているすべてのレコードを返すことができます。
- ・ レポートの保存において、「マイ・レポート」および「パブリック・レポート」などのフォルダの中にフォルダを作成して、レポートをより適切に編成できるようになりました。
- ・ 日付によるフィルタリングを改善し、1 日に満たない日数をフィルタとして使用できるようになりました。
- ・ カラム・レポートの出力形式に Excel (プレーンな出力) を選択したとき、添付ファイルのファイル名がレポートに含まれるようになりました。
- ・ 階層レポートをより簡単に作成できるよう、GUI が改善されました。レポート上で使用されるフィールドと、それらに関連するフィルタが一緒に表示されるようになりました。
- ・ カラム・レポートのソート順ボタンとグループ化ボタンの数を 8 個に増やしました。
- ・ 新しいレポート・タイプとして、「プランニング・レポート」が追加されました。ユーザは任意の数の子 issue をマトリクスに表示した後、マトリクス上のイベントを操作することができます。例えば、イベントを新しい時間枠にドラッグしたり、イベントの開始日や終了日を変更することが可能です。
- ・ スケジュール・レポートの機能がグラフに追加されました。
- ・ マトリクス・レポートおよびサマリ・レポートに、スケジュール・レポートの機能が追加されました。
- ・ 値ベースのグラフにおいて、表示内容を明確にするため、Y 軸のラベルを「件数」に変更しました。

新しい管理機能

- ・ ユーザ・アカウントの職位には、128 文字まで使用できるようになりました。以前は 30 文字しか格納できませんでした。
- ・ 任意の数のリピーティング行を、レポート・レイアウトを含めた複数のレイアウトに配置することができるようになりました。

- ・管理者がソート順/フィルタを更新後、最初の一覧に戻る際に更新内容が記憶されるようになりました。したがって、管理者はそのときにソートやフィルタを再設定する必要はありません。
- ・画像ファイルのディレクトリ構造が変更され、カスタム画像セットやカスタム・スタイルシートを備えたサイトでのアップグレードが可能になりました。
- ・データ辞書画面および編集画面からセキュリティ権限の設定を行えるようになりました。
- ・レイアウト・エディタからセキュリティ権限の設定が可能になりました。
- ・フィールドが issue データを持たない場合、関連するメタデータがなければ、そのフィールドを削除できるようになりました。ただし、項目データが存在している場合は、そのフィールドは削除できません。
- ・新しい動作設定 "SUPPRESS_STANDARD_EMAIL_LIST" により、電子メール送付時に使用されるルールが決定されます。これまでは、この設定は Configuration.properties ファイル内で行われていました。この設定をこれまで使用していたユーザは、6.5.1 へのアップグレード時に動作設定として登録する必要があります。
- ・ユーザの会社名が、UDF の一覧として管理されるようになりました。これにより、手動で社名を入力することによるスペルミスの危険性が排除されます。
- ・セキュリティ権限がプロジェクトに対して設定できるようになりました。
- ・フィールドをビジネスエリアやプロジェクトごとに作成および保守することが可能になりました。
- ・「マスター・エリア」を「グローバル・エリア」に改名しました。また、グローバル・エリア内のデフォルト・プロジェクトが「マスター・プロジェクト」に改名されました。
- ・セキュリティ権限の設定が、レイアウト・エディタから可能になりました。
- ・追加/編集レイアウト上のフィールドのフォーマットおよび表示をさらに広範に制御するため、以下の3つの新しいレイアウト・セル属性が追加されました。
 - VALUE_TAG_DEFAULT - フィールド値のスタイルおよび他の属性を設定できます。
 - LABEL_TAG_DEFAULT - フィールド・ラベルのスタイルおよび他の属性を設定できます。
 - VALUE_TAG_DEFAULT - レイアウト上の値について、システム全体でのデフォルト・スタイルを設定します。
- ・レイアウト・エディタとレポート・エディタでの長いタイトルの表示を改善しました。長いタイトルはエディタにおいて適切な幅に切り捨てられますが、対応する追加/編集画面およびレポートでは完全な形でレンダリングされます。
- ・ビジネス・ルールをビジネス・エリアに継承することが可能になりました。この機能により、管理者は、ビジネス・ルールをグローバルにするか、1つのビジネス・エリアの範囲内のみで限定して入力することができます。

- ・ Ajax 技術を使用することにより、下記のレイアウト・セル属性の更新時に、画面の更新が不要になりました。これにより、パフォーマンスの大幅な改善とユーザビリティの向上が実現しました。

FIELD HIGHLIGHTED IF

FIELD NOT REQUIRED IF

FIELD READONLY IF

FIELD REQUIRED IF

FIELD VISIBLE IF

HIGHLIGHT VALUE IF

SELECTED

- ・ 1 つのレイアウトの中で重複するフィールドがある場合のエラーメッセージが改善されました。現在では、エラーのあるフィールド名とともに、それが出現するレイアウトが警告メッセージとして表示されます。
- ・ issue ID のフォーマットをエリアごとにカスタマイズし、固有のシーケンスを持たせることが可能になりました。フォーマット後の ID は ALT_ID として扱われます。
- ・ 新しくフィールドを作成する際に、予約語が使用されることを防ぐためのエラーメッセージが出力されるようになりました。
- ・ ユーザ・インターフェースがテーマから選択できるようになりました。これにより、すべての設定を個別に行う必要はなくなりました。
- ・ 新しいフィールドを、データ辞書からではなくレイアウトエディタから直接作成できるようになりました。
- ・ フィールド作成時の [URL として表示] ボタンに、フィールドごとに異なる画像を使用できるようになりました。
- ・ スプレッドシートからのアップロードにより、フィールドを作成することが可能になりました。インポート管理メニューに追加された新しい機能により、管理者がテンプレートをダウンロードし、それを使用して作成対象のすべてのフィールドを指定することができます。
- ・ ログ・ファイルに、ユーザにメールが通知された理由を示すデバッグレベルができました。ログには、メールを受信したユーザ ID とメールの通知理由が表示されます。
- ・ エスカレーション機能に使用されていた Perl スクリプトが不要になり、内部タスクに変更されました。これにより、管理者がタスク・マネージャで管理できるようになりました。

- ・新しい動作設定"DEFAULT_START_PAGE"が追加されました。これにより、管理者は新しいユーザのスタート・ページを設定できるようになりました。デフォルトはホームページですが、クエリ・ページ、issue 追加画面または管理画面に設定することも可能です。
- ・テキスト・フィールドの文字数の制限は、デフォルトで 255 文字となりました。この文字数制限はレイアウト属性を使用することにより、より少ない数に変更することが可能です。
- ・セキュリティ・キーが追加され、より多くのレベルの管理者を作成することが可能になりました。以下の新しい制限キーにより、より簡単に管理者の階層を作成することが可能です：
 1. CF_USER_ROLES
 2. CF_PRIVACY_GROUP
 3. SE_SECURITY_USER
 4. USER.AREA
 5. USER.PROJECT
 6. USER.START_PAGE
 7. USER.INTEREST_LIST
 8. USER.ESCALATION_RULES
- ・新しい動作設定"ALLOW_SECURITY_PERMISSIONS"が追加されました。これにより、すべてのロールには自動的に、作成される新しいフィールドへの読み取り権限と書き込み権限が与えることが可能になりました。
- ・サインオンしたことのないユーザでも、電子メール通知を受け取るようになりました。以前はアカウントがあってもログインしていないユーザは、メール通知を受け取っていませんでした。
- ・カスタム画像タイプのフィールドの格納場所を、IMG_HOME から IMG_NAV_BAR_HOME に移動しました。画像にカスタム・フィールドを使用しているユーザは、このリリースにアップグレードする際にはすべてのカスタム画像をこの新しい場所に移動させてください。
- ・スタンドアロンのユーティリティであった BatchMail 処理が、ExtraView の内部タスクになりました。
- ・issue レコードのファイル・インポートの実行時に、デフォルト値が取り込まれるようになりました。
- ・XML 形式でのエクスポート・ユーティリティでの選択内容を保存し、リストアする手段を作成しました。エクスポート可能なデータを明確にし、メタデータをエクスポートするための新たなフィルタを提供します。

- ・新たにレポート・レイアウト・タイプを作成したとき、対となるデータ辞書エントリが自動作成されるようになりました。以前は、管理者が手動でデータ辞書エントリを作成し、そのレイアウトがレポートで使用できるように設定する必要がありました。
- ・以下のセル属性をサブレイアウト ("LAYOUT.zzzzz") に適用すると、サブレイアウト中のすべてのフィールドに対しその属性が適用されるようになりました。これにより、フィールドごとに属性を設定する作業が不要になりました。
- ・VALIDATE_HIDDEN レイアウト・セル属性は、VISIBLE_IF 属性および SELECTED 属性とともに選択されている場合、組み込みレイアウトで動作するようになりました。
- ・添付ファイル・フィールドおよび通知フィールドは、HTMLfield set の中にレンダリングされるようになりました。これにより、横方向に取られる幅が狭くなりました、ユーザには実装において、フォーム全体でより一貫したルック・アンド・フィールが提供されます。
- ・ファイル・インポート・ユーティリティによって issue を一括登録した場合に、メール通知を無効にすることができるようになりました。
- ・関連 issue のタイトルを変更できるようになりました。ユーザは、レイアウト上で代替タイトル・レイアウト属性を使用して再設定します。
- ・管理者は、issue を関係グループに含める時と、関係グループから除外する時の監査証跡を見ることができるようになりました。
- ・エリア内でルール変更された場合にアプリケーション・ログおよびシステム・ログを参照することにより、完全な変更内容を把握することが可能になりました。
- ・新しいレイアウト・タイプ"HOME_PAGE"が追加されました。これがレイアウトの作成に使用されると、管理者は特定のビジネス・エリアおよびプロジェクトに直接ナビゲートすることにより issue を追加するボタンか、直接レポートを実行するボタンとなるフィールドをレイアウト上に配置することができます。
- ・EVMail に関連した、2つの新しいパラメータが追加されました。

1.EVMAIL_ALLOW_HTML_MSG - 有効な値は YES、NO、PARSE です。指定されていない場合のデフォルト値は PARSE です。

2.EVMAIL_ALLOW_HTML_MSG_FAIL_TEMPLATE - 上記のパラメータが NO である場合にのみ使用されます。これが存在しない場合、SMTP_MSG_FAIL_TEMPLATE が使用されます（存在していれば）。

動作は次の通りです：

1.EVMAIL_ALLOW_HTML_MSG - 有効な値は YES、NO、PARSE です。指定されていない場合のデフォルト値は PARSE です。

2.EVMAIL_ALLOW_HTML_MSG_FAIL_TEMPLATE - 上記のパラメータが NO である場合にのみ使用されます。これが存在しない場合、SMTP_MSG_FAIL_TEMPLATE が使用されます（存在していれば）。

動作は以下のとおりです。

1. HTML メールをそのままの形で受け入れ、それを HTML エリア・フィールドに配置して、フォーマットの保持を試みます。前提条件となるのは、主に短いメールを受信していて、テーブルやリンクなどの HTML 構成を保持したい場合です。

2. 受信される HTML 形式のメールから HTML タグを取り除き、内容をテキスト・エリアまたはコメント・フィールドに配置します。ExtraView はテキストを解析し、可能な限り多くの HTML を除去します。一部のタグが認識されない可能性があり、不適切な HTML が拒否されないことがあるため、これは完全な解決法ではありません。

3. 受信される HTML のみのメールを拒否し、送信元に拒否通知を送り返します。(83482)

- ・ 画面上の更新の一部に Ajax を使用するようになったため、ビジネス・ルール起動時に画面がスクロールされなくなりました。したがって、レイアウト・セル属性"FORCE_ALIGNMENT"、または動作設定"EMBEDDED_LAYOUT_REFRESHES"を使用する必要がなくなりました。これらの設定はこのリリースからは非推奨です。
- ・ 新しい動作設定"CLICK_LOCKDOWN_TIMEOUT_SECS"が追加されました。これにより、Ajax 呼び出しが実行された時のタイムアウト時間が設定可能になりました。
- ・ ユーザ定義のリスト値に限らず、すべてのリストタイプ・フィールドをデータ辞書内で管理できるようになりました。これにより、事前定義されたリストタイプのフィールドについても、データ辞書からの更新が可能になりました。
- ・ ドリルダウン可能な管理リストにおいて、マウスが置かれている項目が明確に強調されるようになりました。
- ・ ユーザ・アカウント・テーブルのユーザ定義フィールドを 5 個から 10 個に増やしました。これらのフィールドは、ユーザ情報の[個人情報]タブで見ることができます。
- ・ エスカレーション・ルールのフィルタにおいて「等しい」に加え「等しくない」に設定することが可能になりました。
- ・ 新しい動作設定"CACHE_ENABLE_FIX_FOR_IE"が追加されました。この設定を'YES'にすることで、Internet Explorer の問題が原因でサーバへのドキュメントアップロードが行えない場合に対応します。
- ・ 開発環境から実稼動環境への電子メール・テンプレートの移行を支援するため、電子メール・テンプレートに\$\$APP_HOME\$\$トークンがサポートされるようになりました。これにより、サーバ名を実行時に取得して電子メール・テンプレートに挿入することが可能です。
- ・ 新しいフィールド"NOTIFICATION_HISTORY"が使用可能になりました。これは履歴レイアウトに配置することができ、issue の変更ごとに通知を受けたユーザを履歴画面の一部として表示できます。
- ・ 管理画面にエスカレーション・ルールの「有効」カラムが追加されました。これにより、管理者は個々のエスカレーション・ルールの管理画面にドリルダウンすることなく、有効な値を見ることが可能になりました。

- ExtraView の外部情報をサインオン画面から参照する機能が導入されました。本リリースから、DISPLAY_SIGNON_URL_1 と DISPLAY_SIGNON_URL_2 の 2 つの動作設定が追加されています。これらはデフォルトでは ExtraView のサーバから得た製品情報を示します。これらの設定を変更して、サインオン画面に独自のサーバから得た情報を示す追加のフレームを配置することが可能です。
- 画面のヘッダーおよびフッターにおいて[印刷]ボタンを非表示にできるようになりました。また、フッター全体を非表示にできるようになりました。
- データ辞書のタイトルが最長 255 文字まで入力可能になりました。以前は 100 文字までに制限されていました。
- Oracle 11g をサポートするようになりました。
- ドキュメント用の新しいフィールドタイプが作成されました。これにより、issue のフィールドとしてドキュメントを格納することができます。ドキュメントに対する変更については完全に履歴が記録されます。
- ホームページおよびすべてのレポート作成画面は、全体が収まるように表示できるようになりました。これは、動作設定"REPORT_TABLE_WIDTH"を 100%に設定することで実現されます。
- SSO で作業するユーザ向けに LDAP_UPSERT_DEFAULT_USER_ROLE 設定を拡張しました。これにより、ユーザのロールを SSO により upsert することができ、guest ロール以外のロールを採用することが可能です。
- 新しい動作設定"DISABLE_INACTIVE_UDF_WARNINGS"が追加されました。これに YES を設定すると、古い値が issue の中に設定されたときに生成される警告が無視されます。この動作設定が YES に設定されていない場合、許容値の設定から値を引用します。
- 小数フィールド・タイプに新しい属性を定義できるようになりました。これによりパーセント記号付きの書式を小数フィールドに使用できます。
- ExtraView によって生成されたメール通知に返信する際に元のメールを非表示にすることを可能にしました。EVMail クライアントは、issue の更新時に新しいエントリだけを ExtraView issue のコメントに確実に追加できるようになりました。
- 関連する issue の表示から Edit ボタンを使用して起動された編集セッションでは、新しいウィンドウを使用するのではなく現在のウィンドウ内のモーダル・ウィンドウを使用することが可能になりました。
- 異なるレイアウトに別々のタイトルを提供するために、データ辞書の\$\$LAYOUT.TITLE\$\$にタイトルを定義できるようになりました。
- 網掛け領域のための新しいカスタム表示タイプ・フィールド"SHADE_PRE_xxx"および"SHADE_POST_xxx"の形式が使用可能になりました。
- 特定のリスト値の所有者であるユーザに自動的に通知を送ることが可能です。この値がルールによって読み込まれるように、新しいルール修飾子が導入されました。

- ・新しい動作設定 "MENU_BUTTON_POSITION" が追加されました。これは画面のヘッダーとフッターにあるメニュー・ボタンと画面タイトルを置き換えます。
- ・ADD_CONFIRMATION という任意選択のレイアウトが追加されました。このレイアウトが新しい issue の挿入後にレンダリング対象として継承パス内で見つければ、それが使用されます。これにより、新しい issue が挿入された後に確認画面に異なるレイアウトを使用することが可能です。
- ・ID に対する ALT_ID の使用時に、プロジェクトごとに異なるシーケンス ID を作成することができるようになりました。
- ・添付ファイル移行ツールに -archive オプションを追加しました。これにより、システムでは引き続き添付ファイルに INTERNAL を使用しながら、ユーザがデータベースからの添付ファイルの抽出およびアーカイブに移行ツールを使用することが可能です。
- ・attachment_id のファイルを渡すことによりファイル・システムにアーカイブする機能が追加されました。入力ファイルを利用して、データベースから添付ファイルの特定部分を抽出することが可能です。
- ・新しいセル属性 "RELATED_ISSUE_DISPLAY_FILTERS" が追加されました。これにより、関連する issue の表示に複雑なフィルタを適用することが可能になりました。
- ・シングル・サインオンの機能が改善されました。
- ・EVMail の新しい設定として、"DELIM_GEDEX" が完全サポートされました。これにより、受信メール内の検索パターンを決定できるようになりました。また、元の通知の構文解析が可能となり、最新のテキストのみを issue の更新に使用できるようになりました。
- ・新しい動作設定 "HIDE_ISSUE_ID" が追加されました。これにより、すべての画面で ExtraView の ID フィールドを非表示にすることができます。
- ・新しいユーザが作成されたときに、ロールごとに同じデフォルトのホームページ・レポートを使用できるようになりました。
- ・インストールで ABBREVIATED_HISTORY を YES に設定している場合、履歴レポート上の各フィールドは、[レポート用に選択]の設定に従うようになりました。
- ・新しい動作設定 "MINI_HISTORY_FIELDS" が追加されました。これにより、表示されるフィールドが STATUS、TIMESTAMP、および ASSIGNED_TO に固定されず、設定が可能になりました。
- ・新しいフィールドとして、代替ユーザ ID が追加されました。このフィールドはユーザ管理ユーティリティから変更可能です。この機能によって、ユーザの ID の変更および代替ユーザ ID によるサインオンが可能です。
- ・モジュール・フィールドを有効および無効にすることが可能になりました。
- ・ALT_ID の使用時、PROJECT フィールドに代替タイトルをつけることができるようになりました。これにより、issue に代替 ID を使用すると同様に、PROJECT フィールドの値の短縮が可能です。

- ・返信メールの元のテキストを消去する EVMAIL の機能が電子メールテンプレートでも機能するようになりました。これにより、テンプレートによって生成されたメールからユーザが ExtraView サーバに返信すると、メールの全文ではなく新しく入力したテキストのみが issue に追加されます。
- ・ユーザによって電子メールテンプレートが編集されたとき、保存されたテンプレートからテキストを読み込もうとすると、テンプレートが上書きされる警告が現れます。
- ・関係グループにおける関係タイプに、新しく "SIBLING" タイプが追加されました。SIBLINGS では参照された ID と共通の親を持つ issue が取得されます。
- ・関係グループの消去ボタンが、正常に機能するようになりました。
- ・「削除」が関係グループの消去ボタンによるトランザクションである場合には、関係グループの消去ボタンは「消去->挿入->削除」といった優先順位が与えられます。
- ・データ辞書フィールドの GENERATE_EMAIL および EMAIL_CUSTOMER では、新たにチェックボックスの値が制御可能になりました。これらのフィールドをルールの中で使用して、値を CHECKED または UNCHECKED に設定することが可能です。
- ・ADD ルールと COPY ルールで ATTACHMENT キーワードがサポートされるようになりました。それをどちらかのコマンドの中で使用すると、すべての添付ファイルが作業中の issue から新しい issue へとコピーされます。
- ・ERROR: アクションが onchange セクションの中でも機能するようになりました。
- ・個々のルールごとのログ記録が可能になりました。また、ログをすべてのルールの詳細情報で満たさずに、個々のルールのデバッグを可能にします。
- ・新しい動作設定 "AUTO_POPULATE_ALLOWED_VALUES" が追加されました。これにより、ユーザが許容値リストに子値を追加したときに、ExtraView は許容値を作成すべき適切なエリアおよびプロジェクトを推測することができます。
- ・代替ユーザ ID のフィールドのサイズが拡張されました。これにより、このフィールドには 128 文字まで入力することが可能になりました。
- ・EV メール の Authentication Exception (認証エラー) の処理が変更されました。最初の段階では、一時的なエラーと見なし、WARN 状態を生成して、定義された時間内に所定の数を超える WARN 状態を受け取ると、タスクが ERROR 状態に移行するようになりました。
- ・表示タイプが日付であるフィールドにおいて、時間の要素も表示するようになりました。時間の要素を選択するかどうかは任意です。
- ・新しいユーザのデフォルトのフォントサイズが「小」ではなく「中」に設定されるようになりました。

issue の追加 / 編集の改善

- ・新しいフィールド表示タイプとしてラジオ・ボタンがサポートされます。管理者は従来の横並びラジオ・ボタンに加え、縦並びのラジオ・ボタンが使用可能です。
- ・ issue 編集画面に[保存して続行]ボタンが表示できるようになりました。ユーザは issue 編集時に、編集内容を保存し、そのまま編集作業を続行することができます。この設定は新しいセキュリティ・キー"PR_RESOLUTION.SAVE_AND_CONT_BUTTON"を設定することで可能です。
- ・「URL として表示」フィールドの外部リンクにパラメータを設定する機能が実装されました。ユーザは、フィールドの項目名に外部リンクを設定することができます。
- ・選択された値が複数値のリスト・フィールド内で強調表示されるようになりました。これにより、長いリストにおいて選択されている値がより明確になっています。
- ・追加および編集画面において、検索レイアウトを配置できるようになりました。
- ・ログ・エリアまたはコメントタイプのフィールドが一括更新に含まれている場合、既存のエントリが変更されるのではなく新しいエントリがフィールドに挿入されるようになりました。
- ・一括更新操作において、レコード・セクタ機能が使用可能になりました。選択された項目のみを一括更新できます。
- ・追加および編集画面において、カラム見出しのタイトルをクリックすることにより、関連する issue 表示のソートが可能になりました。
- ・編集画面において、関連する issue の表示に使用する関係グループを動的に選択できるようになりました。
- ・関連する issue の入力フィールドに、複数の ID をセミコロンで区切って入力できるようになりました。以前は、1 回につき 1 つの ID しか入力することができませんでした。
- ・レポート用の機能として、新たに Quickedit モードが使用できるようになりました。これにより、ユーザはレポート上で表示されている項目のみ、直接編集できるようになりました。これは多くの issue を一度に見直し、編集するための非常に迅速な手段となります。
- ・新しいフィールド表示タイプとして"image"を作成しました。これにより、画像フィールドを他のすべてのフィールド・タイプと同様に使用することができます。任意の数の画像フィールドを、追加画面および編集画面のほか、リピーティング行にも配置することができます。
- ・[添付ファイルを追加]機能から、複数の添付ファイルを同時に追加できるようになりました。1 回の操作で最大 10 個の添付ファイルを追加できます。
- ・関連 issue の表示において、他のフィールドと同様に添付ファイルが表示可能になりました。
- ・複数の関係 issue を持つ関係グループにおいて、issue を編集したとき、関連する issue フィールドには、関係グループの最初の issueID が常に表示されるようになりました。以前は、関連する issue の他メンバーの ID が書き込まれていました。

- ・ポップアップ・リスト・フィールドおよびポップアップ・ユーザ・フィールドに、新しくオートコンプリート機能が追加されました。ユーザが設定された文字数をタイプすると、リスト内の一致する可能性のあるすべての値から成るリストが作成されます。ユーザは入力を継続するか、リストから値を選択してエントリを完了できます。
- ・複数の issue を編集する際に、2 つの新しいボタン[更新して前へ]および[更新して次へ]が追加されました。ボタンを押下すると現在の issue が保存され、前または次の issue が編集用に開かれます。この機能を使用するためには、"PR_RESOLUTION.ALLOW_EDIT_NEXT_PREVIOUS"キーの書き込み権限を付与します。
- ・テキスト・エリア、ログ・エリア、出力エリア、および HTML エリアが保持するデータは、フィールド・エントリあたり 128KB に増えました。
- ・テキスト・フィールドに"ID フィールド名 ID 番号"と入力すると、その ID の issue へのリンクが表示されるようになりました。たとえば、ID フィールドのタイトルが"ID #"であるとき、テキスト・フィールドに"ID # 12345"と入力すると、ID が 12345 である issue へのリンクが提供されます。
- ・issue 追加画面において、関連 issue の追加が可能になりました。
- ・添付ファイル、ドキュメント・フィールド、画像フィールドにファイルをアップロードする機能が新しくなりました。ファイルのドラッグアンドドロップ機能、多くのファイルを一度にアップロードする機能、ファイルのフォルダ全体をアップロードする機能が提供されます。画像を画面からキャプチャし、直接ユーティリティにペーストすることで、それらが自動的にアップロード用ファイルになります。また、画像をアップロード実行前に切り取ることも可能です。
- ・表示されないフィールドのみの行について、追加/編集レイアウトにレンダリングされなくなりました。この動作は自動的に行われるため、ユーザによる操作や設定は必要ありません。

拡張機能

- ・SSL 経由の LDAP が有効になりました。これにより、LDAP 接続を SSL 接続を経由して確立できるようになりました。
- ・issue が更新される際に、電子署名を発行することができるようになりました。以前は、issue のステータスが変更されたときのみ、電子署名を発行することが可能でした。
- ・area_id および project_id はそれぞれの管理画面において可視になりました。これにより、データベースに SQL クエリを実行することなく、ID を確認することができます。
- ・SSO が有効である場合、LDAP UPSERT を実行できるようになりました。これにより、SSO が有効でなかった場合にのみ LDAP upserts が実行されるという制限が取り除かれました。
- ・新しい動作設定"LDAP_UPSERT_DEFAULT_USER_ROLE"が追加されました。これにより、LDAP 経由のユーザ・ロールの設定を、標準の LIMITED_USER_ROLE とは別のものにすることができます。

- SSL が EVP4D でサポートされるようになりました。
- 関係グループ・リンクにフィルタを追加したことにより、 オープンしているサブ issue がないことを検出できるようになりました。以下に例を示します。

```
<= link rgOpen ==> RG(RG_NAME = MY_GROUP, RG_TYPE=CHILDREN), STATUS != Closed

if (STATUS.{changed to: Closed} && (rgOpen).ID.{is not null} )

{ERROR: Cannot set the status to Closed when there are open child issues.};
```

この機能改善がルールに追加されました。

- ルール{REAUTHORIZE: }のアクションが改善されました。再認証された電子署名がレポート更新中に適用できるようになりました。
- ルールの機能が改善されました。
- 値を持たないレコードや、関連する issue の表示機能を使用しているフィールドが空の値を持つようなレコードであっても検索できるようになりました。

新しいルールは以下のようになります：

```
<Link AREA='Licenses',

KEYWORD=SIMILAR_SEARCH,

LICENSE_TYPE='Actual License',

COMPONENT_ID={NULL} />
```

- LDAP にマッピングされたフィールドのデータをユーザ・フィールドの値として取り込むことが可能になりました。マッピングは Configuration.properties ファイルに定義されます。
- LADP サーバに対するカスタム認証と、ExtraView 標準の認証を混合して使用することが可能になりました。これは"CUSTOM_AUTHENTICATION"に新しいオプションが追加されたことによります。
- LDAP PRIMARY_KEY の値を、LDAP で一般的に実装される大文字ではなく小文字にすることを可能にしました。
- 新しいルール・アクション:{COPY:}が使用可能になりました。これは{ADD:}と同様に機能しますが、フィールド・リストを指定する必要はありません。一方、フィールドを明示的に指定する場合には、現在管理しているフィールドの値を置き換えるべき値が必要です。
- Configuration.properties ファイルのプロパティを追記することで、LDAP 検索をフィルタリングすることができます。例を以下に示します：

```
LDAP_SEARCH_FIELDS = SURNAME,GIVENNAME,PRIMARYKEY,PHONE,COMPANYNAME
```

とすると、電話番号および/または会社名を使用してユーザ・ポップアップでユーザ検索を行うことができます。

- ・関係グループにおいて、フィルタを追加することにより、オープンされているサブ issue がないことを検出することが可能になりました。

以下に例を示します。

```
<= link rgOpen ==> RG(RG_NAME = MY_GROUP, RG_TYPE=CHILDREN), STATUS != Closed  
  
if (STATUS.{changed to: Closed} && (rgOpen).ID.{is not null} )  
  
{ERROR: Cannot set the status to Closed when there are open child issues.};
```

この機能改善がルールに追加されました。

- ・構成プロパティの LDAP_EDIT_FIELDS_CHANGE_ON_REFRESH を NO にすると、LDAP 編集フィールド更新の動作が変更され、編集画面が最初にレンダリングされたときや編集画面が更新されたときではなく (NO 以外の場合はそのタイミングで変更)、親のユーザ・フィールドが変更された場合にのみフィールドが変更されます。
- ・EDIT_SCREEN_LDAP_FIELDS の機能が変更されました。構成プロパティの LDAP_EDIT_FIELDS_CHANGE_ON_REFRESH を NO にすると、編集画面が最初にレンダリングされたときや編集画面が更新されたときではなく親のユーザ・フィールドが変更された場合にのみフィールドが変更されます。
- ・ユーザ・アカウント・レコードにある、10 個のユーザ定義フィールドを LDAP サーバ上のフィールドにマッピングすることが可能になりました。これらのフィールドには LDAP_USER_DEFINED_1 から LDAP_USER_DEFINED_10 までの名前が付けられます。
- ・Ajax リフレッシュの正常完了後に呼び出される、新しい UserJavaScript メソッドを追加しました。
- ・追加のフィルタを動的に関連 issue の表示結果に追加できるようになりました。
- ・LDAP サーバから ExtraView にマッピングできるフィールド長を増やし、想定される最も長い値が収まるようになりました。
- ・E メールアドレスを持たないユーザが LDAP / SSO 接続により upsert されることを防止できるようになりました。
- ・追加画面と編集画面におけるユーザ名の表示に、より柔軟なカスタマイズが可能になりました。このカスタマイズのためのイグジットは、ucTypeAheadUserNameDisplayListByTypeaheadSearchKey です。
- ・ナビゲーション・バー全体をカスタム・コードで定義された新しいナビゲーション・バーに置き換えることが可能になりました。この新しいユーザ・カスタム・イグジットの名前は ucNavBarReplace です。

- ・新しいユーザ・カスタム・イグジット "ucAllowAttachmentOperation" が定義されました。これにより、ExtraView の開発者が添付ファイルのアップロードと管理を行う方法と時期をさらに詳細に制御できるようになりました。
- ・LDAP サーバへの接続時に、選択リストが表示されるユーザ・フィールドを使用すると、AJAX 呼出しがタイムアウトしたというエラーメッセージが修正されました。
- ・同一の LDAP スキーマ名を、複数の ExtraView 構成ファイルのプロパティにマッピングすることが可能になりました。例えば次のような設定が可能です。

```
LDAP_PRIMARYKEY = uid
```

```
LDAP_EMAIL = uid
```

- ・一括更新ユーティリティでユーザ・カスタムが変更利用可能なフィールドのリストをフィルタリングできるようにする、新しいユーザ・カスタム・イグジットが追加されました。
- ・動作設定 "ATTACHMENT_REPOSITORY_OPT" が拡張されました。これにより、ユーザ・カスタムによる添付ファイルを外部に格納する処理が行われなくなりました。
- ・issue の追加および更新実行中に、継続的に LDAP にアクセスする必要がなくなりました。これにより、パフォーマンスの向上が実現されました。
- ・単一のテキスト・フィールドで複数のメール・アドレスを処理することができるようになりました。テキスト・フィールドは、個々のメール・アドレスをカンマまたはセミコロンで区切ることで解析されます。
- ・新しいパラメータ、-type <content-type> が追加されました。これにより、コンテンツのタイプによる添付ファイルの選択を可能にします。
- ・ExtraView が接続されている LDAP サーバの障害を考慮するため、タイムアウトが導入されました。
- ・LDAP と ExtraView インスタンスを同期できるようになりました。これにより、issue の追加および更新の際に連続的に LDAP にアクセスする必要がなくなり、パフォーマンスを大幅に改善することができます。
- ・動作設定 "CUSTOM_AUTHENTICATION" の用法が変更されました。LDAP 認証もしくはカスタム認証をおこなっているユーザは、この動作を再設定する必要があります。
- ・統合デーモンのログ・ファイルに ExtraView の issue ID と PERFORCE ジョブ名が記録されるようになりました。
- ・一括更新機能に新しいカスタム・イグジットが追加されました。これにより、一括更新ユーティリティにおいて変更可能なフィールドのリストを、ユーザ・カスタムによってフィルタリングできるようになりました。
- ・表示機能に新しいユーザ・カスタム・イグジットが追加されました。これにより、メニュー上の個々のボタンをカスタム・コードによって抑止できるようになりました。

- ・添付ファイルの表示およびダウンロードを制御する新しいユーザ・カスタム・イグジットが追加されました。これにより、設定されたルールに従って個々の添付ファイルの可視性を制御できるようになりました。
- ・apiAdd ルーチンの代わりにカスタム・コードから高速化された Add を実行するための、新しいクラスが使用可能になりました。
- ・2 つの新しいユーザ・カスタム・イグジット、"buttonInclusionMap" および "setButtonDopeMap" が追加されています。これらにより、追加/編集画面のメニューバーにあるボタンを操作することができます。ボタンの消去と、新しいボタンの定義が可能です。
- ・新しいユーザ・カスタム・メソッド ucRenderHomePageAfter (SesameSession セッション) が設定されました。これにより、ABBREVIATED_HOME_DISPLAY が YES に設定されている場合、ホームページ上に追加のコンテンツをレンダリングすることができます。

パフォーマンス

- ・処理の高速化により、大規模システムにおけるデータ辞書の更新時間が大幅に短縮されました。
- ・許容値関係の更新の際に、Ajax メソッドが用いられるようになりました。これにより、多くの親値と子値の組み合わせを持つ許容値の更新がより高速になりました。
- ・古いセッション・データの削除処理が改善されましたこれにより、ExtraView サーバの起動時間が大幅に短縮されました。
- ・新しい動作設定 "QUERY_TIMEOUT_SECONDS" が追加されました。これにより、クエリ実行時にデータベースの最適化に関する問題が発生したときにも、クエリの最大実行時間が制御されます。
- ・メタデータのインポート処理が高速化されました。
- ・詳細クエリ・モードにおいて画面の更新を排除しました。これにより、詳細フィルタの作成時間が大幅に短縮されます。
- ・管理メニューの 1 つ「関係グループの管理」画面において、Ajax 技術を用いることにより、関連する issue が多数ある場合でも迅速に表示できるようになりました。
- ・事前定義フィールド MODULE_ID を親値とした場合に、許容値リスト更新の際のパフォーマンスが 4 倍程度高速になりました。
- ・<== refresh ==>ルールは Ajax 技術により処理されるようになりました。これにより、多くの画面更新が不要となり、大幅なパフォーマンスの改善がもたらされました。しかし、これは同時にルールに対して <== refresh ==> という名前がもう適用されないことを意味し、そのため同義のルール <== onchange ==> が実装されました。これが今後は推奨される構文となります。

既存のルールは HTML 修飾子によって、`onchange=submitChange(this)`のように起動されますが、これは必須ではなくなりました。HTML 修飾子がレイアウトから削除されない限り、画面更新は依然として起こります。このリリースへのアップグレードに際し、これらの HTML 修飾子を削除することが強く推奨されます。

- JavaScript ファイルはサーバ上で圧縮されるようになりました。これにより、特に低速なネットワーク環境においてページのダウンロード時間が大幅に改善されました。
- UDF_LIST テーブルのインデックスを改善しました。これにより、タイトル・フィールドにインデックス付けしたクエリがより高速に実行できるようになりました。
- relationship_group_item テーブルに新しいインデックスを作成しました。これにより、関連 issue に関わる多くのクエリでパフォーマンスが改善しました。
- サーバ起動時にレイアウトがキャッシュ・メモリに読み込まれるようになりました。これにより、ユーザが最初に ExtraView にサインオンする際のシステム・パフォーマンスが向上します。
- ユーザ・アカウント表示ユーティリティが高速になりました。これにより、ユーザが数千人の場合でも画面レンダリングが高速になりました。
- クライアント・ブラウザが gzip 圧縮をサポートすることを示している場合、追加および編集のすべての HTML ページは、クライアントに送る前に圧縮されるようになりました。
- 新しい動作設定 "RESPONSE_COMPRESSION_THRESHOLD" が追加されました。この設定を行うことにより、大規模で複雑なフォームの処理にかかる時間が大幅に改善されるようになりました。
- なお、ブラウザがバージョン番号が 8 より低い Internet Explorer であることを ExtraView が検出すると、この設定は使用されないことに注意してください。前のバージョンの Internet Explorer には重大なバグがあるため、返されたデータが圧縮されている場合でもパフォーマンスがさらに悪くなるからです。

2. 日本語版 ExtraView に関する注意事項

日本における ExtraView のサポートは、東陽テクニカが行います。各マニュアルの中で「ExtraView 社へお問い合わせください」と記載されている箇所は、「東陽テクニカへお問い合わせください」と読み替えてください。同様に、URL の <http://www.extraview.com/> は <http://www.toyo.co.jp/>、メールアドレスの support@extraview.com は ss_support@toyo.co.jp に読み替えてください。

日本語版 ExtraView 6.5.1 を Windows 上にセットアップする際は、「ExtraView インストール/構成ガイド」と一緒に、必ず「ExtraView セットアップ・ガイド (Windows 用)」もご参照ください。「ExtraView セットアップ・ガイド (Windows 用)」には、パラメータの変更や日本語版独自の情報が記載されています。

日本語環境における動作設定のデフォルト値は、`Japanese_Application_defaults.sql` という名前の SQL スクリプトで東陽テクニカから提供されます。詳しくは、「ExtraView セットアップ・ガイド」をご参照ください。

3. 日本語版 ExtraView に関する制限事項

修正された不具合について

修正された不具合の一覧は、別紙「J_Bug_fixed_all.pdf」を参照してください。

環境に関する制限事項

日本語版 ExtraView 6.5.1 がサポートするプラットフォームは、Windows と Linux です。

日本語版 ExtraView 6.5.1 がサポートするデータベースは、Oracle と MySQL のみです。Microsoft SQL および Apache Derby はサポート対象外となります。

日本語版 ExtraView 6.5.1 がサポートする Web サーバは、Apache のみです。またサポートするアプリケーション・サーバは、Apache Tomcat のみです。

日本語版 ExtraView 6.5.1 では、ExtraView コマンド・ライン・インタフェース (CLI) と ExtraView アプリケーション・プログラム・インタフェース (API) はサポート対象外となります。

動作に関する制限事項

日本語版では、コンテナ・レポートの機能を使用することができません。これは、コンテナ・レポートを使用した結果生成される PDF で日本語を適切に取り扱えないことがあるためです。

回避策：ありません。

issue に添付したファイルが Microsoft Excel ファイルである場合、添付ファイル内の文字列検索が正しく行えない場合があります。これは、Microsoft Excel が内部的に複数のコードセットを保持していることにより、単一のコードセットによる検索を外部から実行することができないためです。

回避策：ありません。

表示タイプがリスト、ポップアップ、タブであるフィールドのリスト値に、半角 501 文字以上または全角 167 文字以上の文字が設定されている場合、ファイル・インポート・ユーティリティに

において、このフィールドをインポートしようとする、（インポートファイルにこのリスト値を設定していなくても）[テンプレートの作成&ファイルのアップロード] ボタン押下時にエラーとなります。

回避策：リスト、ポップアップ、タブ・フィールドのリスト値には、半角 500 文字以内、全角 166 文字以内の文字列を指定してください。

添付ファイルも含めて検索するクエリにおいて、添付したテキストファイルの中に含まれている全角の特殊記号（注 1 の中の "々々〇" を除く文字）が検索できません。

回避策：ありません。

ExtraView が送信する電子メールにおいて、送信者や本文に含まれた全角の特殊文字（注 2）が正しく表示されません。

回避策：ありません。

添付ファイルをファイルシステムに格納した場合、添付ファイル内の文字列検索ができません。

回避策：添付ファイル内の文字列検索を行う場合は、添付ファイルをデータベースに格納するように設定して、ファイルを添付する操作を行ってください。検索時にこの設定を行っても、既にファイルシステムに格納されたファイルは検索されません。

事前定義の [優先度] フィールドと [リリース優先度] フィールドは値を共有していますが、許容値タイプで [優先度] を許容値の子フィールドに設定したとしても、[リリース優先度] フィールドの値は絞り込まれません。

回避策：ありません。

クイックリストにおいて、Column Totals の表示位置（縦位置）がずれます。

回避策：ありません。

[ユーザの詳細を変更] 画面を開いた後、[個人情報] 以外のページを選択して [ページを印刷] をクリックすると、選択されたページのみが印刷されます。[個人情報] のページを選択して印刷した場合、すべてのページが印刷されます。

回避策：すべてのページも一度に印刷したい場合は、[個人情報] ページを開いた直後に印刷してください。

ユーザ・ロール、プライバシー・グループ、ステータスのリスト項目を追加する際に、固定データベース名に "."（ドット）が含まれていると、誤ったエラー・メッセージが出力されます。

回避策：ありません。

サインオン画面において、"ユーザ ID またはパスワードをお忘れですか?" をクリックしたとき、自動的に電子メールが作成されますが、その件名および本文の日本語が正しく表示されません。

回避策：ありません。

「関連 issue を更新」画面において、[1.更新オプション]で「この項目のみを更新」を選択し、かつ[5.通知オプション]で「すべての関連 issue に関連するユーザに通知」を選択した場合、対象となるユーザに対してメールが送信されません。

回避策：この不具合により、実際には変更していない関連 issue に割り当てられているユーザに対して、メールを送信することはできません。これ自体の回避策はありません。変更した issue に割り当てられているユーザだけにメールを送るのであれば、「5.通知オプション」において「関連するすべての issue 上のユーザに通知」を選択してください。

新しい動作設定"USER_ADMIN_DISPLAY_COLUMNS"を用いて、ユーザ・アカウント・メンテナンス画面に表示するユーザ情報を調整できるようになりましたが、POSTAL_CODE、LANGUAGE、EMAIL_FORMAT、RECORDS_PER_PAGE を表示することができません。

回避策：ありません。

一括更新で更新する項目を一度追加後、[-]ボタンで削除しても、値の選択（入力）フィールドが連動して、消えず、画面上に残ってしまいます。

回避策：ありません。一度前の画面に戻り、再度一括更新を選択後、必要な項目だけを選択してください。

新しいフィールド作成時に、表示タイプが「画像」であるにもかかわらず、[フィルタ基準]オプションが選択できてしまいます。

回避策：ありません。

エージングレポートの作成において、[レポートを保存]ボタンを使用した場合、既存のエージングレポートと同じタイトル/同じ説明内容のレポートが作成できてしまいます。[名前をつけて保存]ボタンを使用した場合、この問題は発生しません。

回避策：ありません。

電子メール・テンプレートの作成において、同じ名前/同じタイトルのテンプレートが作成できてしまいます。

回避策：ありません。

ポップアップ・フィールドのエントリとして、セミコロン(;)を含む文字列を登録することができません。通常、セミコロンはフィールドのエントリとしては含められません。

回避策：ありません。

表示タイプが HTML のフィールドについて、セル属性 " READONLY_IF " を設定しているにもかかわらず、条件が合致していなくても書き込みができてしまいます。

回避策：ありません。

ポップアップ・フィールドの検索画面において、[クリア]ボタンを押しても入力値がクリアされません。

回避策：入力値を手動で選択・削除してください。

(注1) 検索できない全角の特殊記号

全々々〇ー / \ ~ | ... ' ' " "
= =

ミ、キ、センメーグラト、アーヘクリツワツカロド、センバ、ミリベ、
リ、ロチ、トルム、ンル、タルトルト、リ、ルト、セ、ポ、ル、シ、mmcmkmmgkgccm²
"、" KK. (株)(有)(代)
ⓇⓈⓉⓊⓗ
平成 明治 大正 昭和

(注2) 電子メールに使用できない全角の特殊記号

ミ、キ、センメーグラト、アーヘクリツワツカロド、センバ、ミリベ、
リ、ロチ、トルム、ンル、タルトルト、リ、ルト、セ、ポ、ル、シ、mmcmkmmgkgccm²
"、" KK. (株)(有)(代)
ⓇⓈⓉⓊⓗ
平成 明治 大正 昭和

(注3) UDF として使用できない予約語

ACTION, CALLED_FROM, CHILD, CUSTOMER, CUSTOM_URL, FROM_ACTION, FROM_OPTION, INTERFACE,
LAYOUT_SESSION_TAG, NEW_REPORT, OPTION, PAGE_LENGTH, PAGE_SIZE, PARENT, RECORD_COUNT,

RECORD_START, REPORT_DESC, REPORT_ID, REPORT_OWNER, REPORT_TITLE, SEARCH_ATTACH_SIZE,
SECURITY, SELECTED, SELECTEDSO, SHOW_EXPANDED, SOURCE, SOURCESO, TEMPLATE_EXPANDED,
UDF, VALUE